

秋田支部 特別研修会 活動報告

1. 日時：11月21日（土）13：30～22日（日）12：00
2. 会場：秋田県健康推進交流センター ユフォーレ
3. 参加人数：14人
4. 講師：浦野 弘先生（秋田大学教育文化学部教授）

内容

<1日目（11月21日）>

1 開会行事

(1) 支部長あいさつ 田口 隆先生（秋田市立旭北小学校 校長）

今年は新型インフルエンザの影響で学校行事などの変更など、対応に苦慮されている学校が多いのではないかと思います。今年度の論文応募が6校と、目標の5校を上回る応募があり喜んでいます。

来年度の東日本ブロック研修会は露木先生を講師に迎え、秋田で開催される。今日明日の研修会はそれに向けての準備として大切な研修会である。活発な意見交換をお願いしたい。

(3) 講師・指導者等紹介

(4) 研究の視点について

テーマ「科学好きな子どもを育てる授業の創造」

視点1 主体的な思考活動を促す手立てについて

視点2 理科学習を促進するメディア活用の在り方について

2 報告会

(1) 東ブロック研修会

小6部会「電気の利用」

研修員 柿崎 一先生（湯沢市立湯沢北小学校）

(2) リーダー養成セミナー

小4部会「人の体のつくりと運動」

研修員 柿崎 維永先生（横手市立雄物川北小学校）



校)

3 講師講話

秋田県教員の平均年齢は45歳で、20代は全体2%しかいない。これまでの積み重ねてきた実践知を次の世代にいかに残していくかが今後の秋田の課題である。

教師の理科離れも問題である。原因の一つとして挙げられるのが、大学の時数減である。また、理科副専攻がなくなったことも大きな要因である。理科を苦手としている先生方が多い中で、理科教員が他の先生を引っ張っていかないといけないだろう。そうやって教師の基礎基本をきちんと押さえる必要がある。

理科の中での言語力育成は話し合い活動が中心になる。話し合いの仕方の指導は1年生の段階から段階を踏んで指導していかなければいけない。新教材として4年生に人体



が入ったが、骨や筋肉といった目に見えない体の内部を扱うため、気付きが少ない。その点を考慮した指導計画が必要である。

学力の向上に関しては、日本の伝統的な当たり前の学習環境と生活環境が不可欠である。①学校の授業に集中する。②家で授業の予習復習をしっかりと行う。③早寝早起き④毎日朝食を食べる。一昔前の日本の学校や家庭では当たり前のことであった。これらは昔からのやり方を変えないことが大切である。

4 分科会

小学校中学年部会は「風とゴムのはたらき」と「もののかさと温度」、小学校高学年部会は「流れる水のはたらき」と「電気の利用」、中学校1分野部会は「水溶液とイオン」の単元について研修した。各分科会では各単元における科学が好きな子ども像を話し合ってから、思考活動を促す場面や手立てを中心に検討した。



5 分科会発表



小学校中学年部会では、発表後に「風とゴムのはたらきの単元は、ゴムの伸びと車の進む距離の関係を定性的に捉える内容ではないか。」「空気、水、金属のかさの変化を調べる場合の熱源をおなじにしたほうがよいのではないか。」という意見が出された。

小学校高学年部会では「川の上流と下流を比較するとき、他校との交流学习を取り入れてはどうか。」「コンデンサや手回し発電機を利用する際は教師が十分になれておく必要がある。」

などの意見が出された。

中学校1分野部会では、陽イオンと陰イオンのモデルの扱いについて質問や意見が出された。

また、東日本ブロック研究会に向けて、科学が好きな子ども像の表記の仕方についての意見も出された。

6 講師指導助言

講師の浦野先生からは話し合いをさせるための条件、メディアやICT活用のねらいや留意点、子どもの学習意欲を高める発問、学力を構成する三要素についての助言をいただいた。



7 閉会行事

支部長による挨拶で、二日間研修を締めくくった。